

「IgA 腎症における血清シスタチン C およびクレアチニン から推算された糸球体濾過量の差異と腎予後の関連」の検 証に対するご協力をお願い

研究代表者 畔上 達彦
研究機関名 慶應義塾大学医学部
(所属) 腎臓内分泌代謝内科学教室

このたび当院では上記の医学系研究を、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

今回の研究では、同意取得が困難な対象となる患者さんへ向けて、情報を公開しております。なおこの研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

1 対象となる方

2012 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日までの期間の間に、慶應義塾大学病院および本研究参加施設で腎生検を受けた 18 歳以上の IgA 腎症の患者。

2 研究課題名

承認番号 20251151

研究課題名 IgA 腎症における血清シスタチン C およびクレアチニンから推算された糸球体濾過量の差異と腎予後の関連

3 研究組織

研究代表機関

慶應義塾大学病院

研究代表者

(職位) 専任講師 (氏名) 畔上 達彦

共同研究機関

東京都済生会中央病院

研究責任者

(職位) 医長 (氏名) 小松 素明

4 本研究の目的、方法

IgA 腎症は世界で最も一般的な糸球体腎炎です。疾患の治療反応性や予後は多様であり、その予

後を予測する指標の開発は重要な臨床課題です。

そこで、我々は今回、腎臓が血液を濾過する能力を示す指標である糸球体濾過量の算出方法に注目しました。クレアチニンおよびシスタチン C という糸球体濾過量を算出する際に参照する検査データによって、異なる糸球体濾過量の推算値が算出されますが、これらの値の差異が、慢性腎臓病患者の予後に関連することが報告されています。これらの指標は簡便に測定が可能であり、IgA 腎症の腎予後予測の一助となる可能性が期待されます。IgA 腎症において、同日採取された検体で測定された血清シスタチン C およびクレアチニンから推算された糸球体濾過量の差異がその後の腎機能推移と関連するかについて検証させていただきます。

5 協力をお願いする内容

2012 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日までの期間の間に、慶應義塾大学病院および本研究参加施設で腎生検を受けた 18 歳以上の IgA 腎症の患者のデータを使用し、同日に測定された血清シスタチン C およびクレアチニンから推算された糸球体濾過量の差異がその後の腎機能推移を評価するための解析を行わせていただきます。冒頭に述べました通り、新たなサンプルの取得は一切ございません。

6 本研究の実施期間

研究実施許可日～2027 年 3 月 31 日

7 外部への試料・情報の提供

該当いたしません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、試料・情報の利用の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

実施施設 慶應義塾大学病院 〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35

研究代表者：畔上達彦 腎臓内分泌代謝内科

連絡先：03-5363-3796

FAX：03-3359-2745

E-mail: t.azegami-1114@keio.jp

なお、お電話でのご連絡は可能な限り診療時間中[月曜日～金曜日および第 2・4・5 週の土曜日(ただし祝日は除く)、午前 8 時 40 分から午後 4 時 30 分]にお願いいたします。

以上